

お ちや や ご てん 御茶屋御殿跡

Former Site of Ochaya-goten Palace



御茶屋御殿焼失後も当地は「御殿山」、あるいは「御殿跡」と呼ばれ、東西 45 間、南北 27 間の除地（年貢のかからない土地）として特別な扱いを受けていました。

「東海道分間延絵図」のうち枚方宿部分（東京国立博物館蔵）



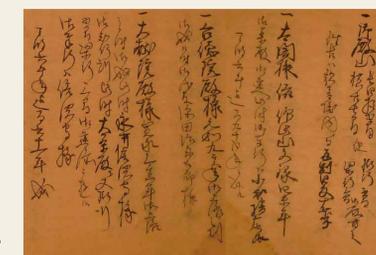
茶屋御殿焼失の直前に刊行された『河内鑑名所記』には、3 棟の桧皮葺建物が描かれています。

（大阪府立中之島図書館蔵）

京・大坂間を結ぶ交通の大動脈、淀川と京街道を見下ろすこの地に豊臣秀吉が御茶屋御殿を建てたのは文禄 4 年（1595）のことです。三矢村に残る記録から秀吉が「御茶殿」を当地に建てたことが確認できます。伝承では、秀吉の家臣である枚方城主本多内膳正政康の娘「乙御前」をここに住ませたとされています。

京都伏見と大坂に拠点をついた秀吉は、この間をしばしば行き来していました。中間にあたる、ここ枚方の地にも立ち寄ったことでしょう。文禄 5 年（1596）の淀川堤防修築に際しては、対岸の大塚から枚方の工事の様子を上機嫌で眺めたとの話も残っています。

江戸時代に入ると、御茶屋御殿は幕府公用の施設となりました。元和 9 年（1623）には 2 代将軍徳川秀忠が、寛永 3 年（1626）には 3 代将軍家光が逗留したと記録に残されています。家光来訪の際には、秀吉が建てた「大茶殿」の脇に桁行 5 間、梁行 3 間の御殿が新築されました。



三矢村の記録には、太閤の文字が見て取れます。

（枚方市教育委員会蔵奥田家文書）

その後は利用されることもなく、「大茶殿」は承応 3 年（1654）老朽化により解体され、新築御殿がその用材の収納庫にあてられていました。しかし、延宝 7 年（1679）7 月 1 日に起こった枚方宿の火事によって新築御殿もろとも全焼し、以後再建されることはありませんでした。

English guide
한국어 안내
中文 指南

